

インタープリター教育 ～標茶高校が目指すキャリア教育～

北海道標茶高等学校
校長 生 田 仁 志

1 学校概要

(1) はじめに

本校は、昭和21年4月1日、文部省告示を以て戦時中軍馬補充部だった敷地や施設を転用し、北海道廳立標茶農業学校として開設され、その後、北海道標茶農業高等学校、北海道標茶高等学校と改称し、平成12年4月に4間口の総合学科に転換し現在に至っている。

終戦後、荒廃した国土を復興させるために必要な食料生産のため、軍事施設であった敷地をそっくり農業教育施設に転用したこと、その後の戦後70年の日本の歩みと学校の歩みが一致していることは意義深い。

(2) 学校教育目標（めざす生徒像）

- 確かな学力を身に付け、主体的で豊かな人間性を持った生徒を育てる。
- 不撓不屈の精神で挑戦し、新しい時代を拓く力を持った生徒を育てる。
- 地域の環境に学び、いのちを尊び、社会の発展に資する生徒を育てる。

(3) 系列の趣旨等

	文 化 理 解 系 列	地 域 環 境 系 列	酪 農・食 品 系 列
趣 旨 ・ 内 容 等	日本及び諸外国の文化や、福祉・食などの生活文化等に係る学習を通して文化や社会状況の多様性について理解を深め、違いを超えて人と人をつなぐ態度や能力（多文化リテラシー）を身に付ける。	北海道の自然環境の現状、価値、保全の方法、食の「安心・安全」等について、地域の環境素材を生かした体験的な活動を通して理解を深め、実践力、表現力（インタープリテーション能力）を身に付ける。	地域の基幹産業である酪農、北海道や標茶近隣の食材を活かした食品加工や食品開発、6次産業化理解のための実習等により北海道の「食」を支える農業経営の基礎的、基本的な知識・技術を身に付ける。
選 択 科 目	異文化理解、英語表現、食文化、パブリックスピーキングなど	自然ガイド、環境教育概論、園芸作物、湿原の科学、環境科学 など	畜産、畜産実習、食品製造、微生物利用、食品流通、食品科学 など
進 学	北海道教育大学（釧路 函館） 釧路公立大学 北星学園大学	北海道教育大学（岩見沢） 北見工業大学 酪農学園大学	帯広畜産大学 酪農学園大学 農業大学校

「いのち」を巡る「人」「自然」「食」の3系列で生き方を学びます



【外国人観光客のおもてなし】



【森づくり植樹活動】



【大型スーパーでの販売会】

2 本校のキャリア教育

(1) キャリア教育推進のための組織とキャリア教育の全体計画

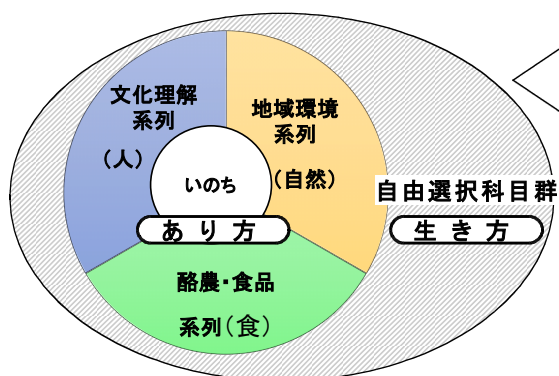
ア 組 織

本校では、総合学科移行時より、キャリア教育推進及び進路指導を所掌する「キャリアガイダンス部」を分掌として位置付けてきた。

平成27年度より、系列を再編して系列ごとに設置のねらいを明確化し、その実現に向けた選択科目設定、ねらいに即した事業の整理といった脈絡づくりに係るコーディネートを所管する機能も併せて所管することとした。また、キャリア教育のねらいに即して系列運営を推進できるよう、各系列の運営を責任を持って推進する系列担当スタッフとチーフを配置するなど、組織等の見直しを図った。

イ 本校で重視する資質、能力

- (ア) 「いのち」の価値を中核とする自らの「あり方」の自覚
- (イ) 自ら課題を見つけ、解決する意欲や方法、表現力と技能
- (ウ) 相手意識、目的意識等の伴ったコミュニケーション能力



「いのち」の価値を体験的に学び、「あり方」を自覚して、「生き方」に対応した科目を選びます。



【小学生対象自然体験学習会】



【英語弁論大会】

ウ 全体計画

名 称	学 習 内 容	主な学習單元
産業社会と人間 1年次2単位	望ましい自己実現に結びつけられるよう、社会の仕組みや、働き方学び方について知り、自己理解と併せて、生き方について考察する。 また、進路を実現するための科目選択について考える。	- 自己を理解する - 職業、上級学校を知る - インタビュー研修 - 発表技術の研鑽 - 進路と科目選択を考える - 各科目で身に付ける「基礎的・汎用的能力」を明示
自己探究 「総合的な学習の時間」 2年次1単位 +1単位（5日間の悉皆インターンシップ）	自己理解を一層深め、在り方、生き方について考察し、インターンシップを通して望ましい勤労観、職業観を醸成する。	- 自己、他者を理解する - マナー、接遇を身に付ける 5日間のインターンシップ - 進路探求 - 進路と科目選択 3年次課題研究の方法を学ぶ
課題研究 「総合的な学習の時間」 3年次3単位	自ら課題を見つけ、主体的、協働的なアクティブ・ラーニングによる研究活動を通して、これまで身に付けてきた基礎的・汎用的能力を総合的に活用するとともに、3年間の集大成として評価する。	- 自ら課題を見つけ、解決を図る能力の実践 - キャリア能力の実践、評価 - 進路探求 - 各系列で目指す生徒像の総合評価 - 地域に貢献するテーマ設定 3年次インターンシップ（希望者）

(2) 「産業社会と人間」における取組

産業社会と人間 3つの領域目標			
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	自己理解と進路意識を高める ・自分の得意分野や適性を知ろう。 ・自分の進路について考え、科目を選択しよう。	勤労観、職業観を高める ・いろいろな分野で働く人の話を聞こう。 ・現場に出て「働くこと」を体験しよう。	社会人基礎力を高める ・主体性・協働性を発揮して研究テーマに取り組もう。 ・誰に、何のために伝えるのかを考えて、わかりやすく伝えよう。
	ガイダンス	職場見学	
	科目選択	自分未来ブック	
	職業診断テスト		
	適性検査		
	進路座談会		
		進路講話	壁新聞作成
			ピア・サポート実践
			学習成果発表会
	進路講話	大学・職場見学	

(3) 地域性を素材とした取組

ア 系列横断的取組 ～インタープリター教育の推進（本校のキャリア教育の重点）～

相手意識、目的意識、場面意識等の伴ったコミュニケーションを円滑に図る力（相手や目的、場面などに対応した言葉に置き換えてコミュニケーションを図る力）を「インタープリテーション能力」と位置付け、全校を挙げて身に付けさせるような取組の推進を図っている。

- (ア) 発表力等を高める弁論大会、意見発表大会、学習成果発表会等の発表場面の充実
- (イ) 教科指導、課題研究等におけるアクティブ・ラーニングの積極的導入
- (ウ) 職業について調べる力（インタビュー能力）、まとめる力の育成とシェアリングによる気づきの促進
- (エ) ピア・サポート導入による自己有用感、ソーシャルスキルの育成
- (オ) 高校生ステップアップ・プログラム活用によるコミュニケーションスキルの把握と小中高12年間を見通したキャリア教育の全体計画策定

イ 地域の特徴を生かした素材

標茶町の町づくりや、道東、北海道の資源などを活用し、その価値を見出し、相手に伝えることのできる力を身に付けるよう、地域の共通素材を意識的に導入している。

共通素材としての「観光、文化資源」「自然環境資源」「農業資源」の活用を図る

- (ア) 標茶町振興に関するテーマ
 - ・地域観光（地域と世界の人をつなぐ）
 - ・エゾシカの活用（環境問題、駆除されたいのちの活用、革・角など地域特産品開発等）
 - ・商品開発（アイスクリーム、飲むヨーグルト等の新商品、シカ肉メニューの開発等）
- (イ) 地域人材（関係機関等）の活用（主なもの）
 - ・地域の観光協会（外国人おもてなしプロジェクトに関する助言等）
 - ・地域商店等（英語ガイドリーフレットづくり、お店のリーフレットづくりへの協力）

- ・ネイチャーガイド（民間人講師、インターンシップ先としての連携協力）
- ・郷土資料館学芸員、シカ肉調理師、鹿革・角の工芸品店主、環境アセス関連会社スタッフ、新聞記者（民間人講師）、ご当地グルメ開発スタッフなど



【記者によるインタビュー講習】



【活躍する農業女性による
魅力発見セミナー】



【エゾシカ肉調理実習】



【エゾシカ角のクラフト講習】

ウ 各系列の特色を生かした取組

	文化理解系列	地域環境系列	酪農・食品系列
プロジェクト研究	☐ shibECOツーリズム…外国人観光客誘致による異文化理解と標茶町振興	☐ 釧路湿原再生…地域産業の振興と自然環境の両立 ☐ エゾシカ活用…駆除されたいのちの活用（革・角・骨） ☐ ガイド育成…自然環境に関するガイド体験	☐ 新商品開発…牛乳の消費拡大を目指す ☐ 食品加工…規格外トマトの有効活用 ☐ 酪農経営…疾病のコントロールによる酪農経営の安定 ☐ シカ肉普及…地域資源活用
関係機関、関係団体等との連携事業等			
系列主幹行事・事業	☐ ライオンズクラブYCE受入（海外交換研修生） ☐ クルーズ船おもてなしプロジェクト ☐ スーパーイングリッシュ・キャンプなど ☐ 交換留学事業（カナダ等） ☐ 東北被災地復興ボランティア体験を发表・活用 ☐ 英語プレゼンテーションコンテスト、スピーチコンテストなど ☐ 生徒による出前授業 ・小5英語活動	☐ 環境サミット（全国） ☐ 環境ミニデイング（全道） ☐ 釧路空港花壇造成 ☐ シマフクロウの森づくり ☐ 湿原クリーンデイ ☐ リバーサイド植樹 ☐ 達古武調査体験会 ☐ 釧路管内科学の祭典 ☐ 標茶町アドベンチャースクール体験を活用 ☐ 生徒による出前授業 ・小5環境教育、小3食育	☐ 町内販売実習 ・標茶町食のつどい ・うまいもん発見市場など ☐ 町外販売実習 ・くしろまるしえなど ・くしろ冬まつりなど ・食彩フェア（釧路・東京） ☐ 東北北海道農業クラブ連盟技術競技会畜産審査競技体験を活用 ☐ 生徒による出前授業 ・小2食育
校内事業			
	☐ 異文化理解講座 ☐ 食文化料理教室 ☐ インターナショナルバーベキューパーティー など	☐ インタープリターズキャンプ（自然体験教室リーダー養成） ☐ 自然は僕らの学校（小学生対象の自然体験教室） ☐ シカ革・角クラフト研修 ☐ シカ肉調理研修	☐ 校内販売実習 ・学校祭、クリスマス販売会、ガラスランドフェアなど ☐ 酪農視察研修 ☐ 校内収穫感謝祭 ☐ 校内意見発表大会
系列横断的取組			
インタープリター教育の推進（本校のキャリア教育の重点） ※環境系列では、特に「自然と人との『仲介』」となって自然解説を行う人」として必要な資質・能力の育成を指す。			

(4) 成果と課題

ア 成果

- (7) 「人」「自然」「食」という地域（北海道）素材を十分活用できる新系列を再編できた。
- (4) 目指す生徒像実現に向け、キャリア教育のねらいを「インタープリター教育」として重点化することができ、間口減にも対応できる特色づくりが実現した。

イ 課題

- (7) 間口及び教職員の削減のため、総合学科の高校としての教育活動の縮小が懸念される。
- (4) 北海道ならではの教育資源を活用できる特色ある総合学科の高校として、全道から存続が期待される高校としてのモデルケースとなるような学校づくりが必要である。
- (ウ) 高校独自の特色づくりだけでなく、北海道開発計画等とリンクした圏域ごとの地域振興に取り組む必要がある。